

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクール参加報告書」

京都大学農学部3年 横田光平

私は将来、海外で働きたいという夢があり、海外の人々との交流を学生のうちに経験しておきたかったのでこのプログラムに参加した。SEND プログラムのメンバーとしてベトナムで過ごした二週間はとても充実したもので、毎日が新しい発見と驚きの連続だった。ベトナムを訪れた初日に、路上で売られている生鮮食品の数々やあふれかえるほど大量のバイクによる交通渋滞を目にしたときは、ベトナムの空気を直に触れているのだということを実感し、ベトナムの文化学習への期待が高まったことを今でも覚えている。その後の二週間のプログラムはその期待以上のものとなった。

私は理系ということもあり文化や歴史には疎く、ベトナムに関する知識は乏しかったが、ハノイ国家大学やベトナム社会科学院での講義によってベトナムの歴史と文化のあらましを学ぶことができた。このような講義はただ単に私たちに知識を授けてくれるだけでなく、ベトナムの現状と発展の過程を把握しておくことで、その後の実地研修や学生交流においてより深い考察が可能となった。そのいった点でも大学での特別講義は有意義だった。

二週間の研修で何よりも印象に残ったのはやはり現地学生との交流である。彼らは「日本が好きだから」「日系企業で働きたいから」「日本語講師になりたいから」など理由は様々だが、それぞれの夢のために真摯に日本語学習に取り組んでいた。朝早くから夜遅くまで勉学に励み、グローバルな将来展望を持つ彼らからは、日本人学生と同等かそれ以上の熱意が感じられた。将来、海外で働きたいと考えながら目標実現への努力を怠っている自分にとって、彼らとの交流は改めて自身のやる気を奮い立たせるよいきっかけとなった。また、学外においてもベトナムの学生と食事を共にしたり、ベトナムの名所を共に巡ったことで彼らとの親睦が深まった。彼らからよく耳にしたのが日本へのあこがれの気持ちだった。その思いを耳にするたびに嬉しさを感じるとともに、今後そのあこがれが失望へと変わることはないように、日本人として責任感のようなものも感じた。これからも日本とベトナムが互いに高めあえるような関係であるために貢献できる人材になりたい。

今回のプログラムを終えて、将来海外へ進出したいという私の思いはさらに強くなった。それは単に海外生活に楽しさを感じたからという理由だけによるものではない。このプログラムで現地の講師や学生と交流し、彼らの考えを耳にしたことで自身の視野が広がったように感じた。私はこれからも自身の視野を広げるために、様々な国を訪れ、交流の機会を増やしたい。そのためにもまだまだ未熟な自身の語学能力や専門知識を向上させていこうと思う。